

2022.2.20(日)

会場 ツタル座 小樽市築港 11-5 ウイングベイ小樽 5 番街 3 階 JR 小樽駅南口直結

※オンライン同時開催

3:00 ~ 17:00

参加無料 ※会場参加定員: 30 名 オンライン参加定員: 200 名



小樽らしいウエルネスの探求

3:00-13:05 趣旨説明
小樽商科大学ビジネススクール准教授 藤原健祐

3:05-13:10 開会挨拶
小樽市長 迫俊哉 氏

3:10-13:40 第1部 トークセッション1
「若者のウェルビーイングと求められるまちの機能」
小樽商科大学ビジネススクール准教授 藤原健祐
北海道教育大学岩見沢校 芸術・スポーツビジネス専攻准教授 鈴木哲平
小樽商科大学3年/合同会社PoRtaru 代表社員 歌原大吾
北海道教育大学岩見沢校 芸術・スポーツビジネス専攻3年 加藤るか

3:40-14:25 第2部 ケースプレゼンテーション
「商業施設に求められる新たな価値の研究」小樽商科大学 猪口ゼミ
「ウエルネスのまちづくりの研究」小樽商科大学 大津ゼミ

4:40-15:00 第3部 トーク
「未病院」
株式会社ヘルスケア・ビジネスナレッジ 代表取締役社長/
事業構想大学院大学 特任教授 西根英一 氏

5:00-15:30 第4部 トークセッション2
「ウエルネスタウン構想」
株式会社小樽ベイシティ開発 代表取締役社長 橋本茂樹 氏
社会福祉法人恩賜財団済生会支部北海道 常務理事 棚引久丸 氏
株式会社北海道二十一世紀総合研究所 調査研究部次長 河原岳郎 氏

15:30-16:50 第5部 ワールドカフェ
「子育て世代と考える“安心して育てられるまち”」
わくわく共育ネットワーク (小樽市教育委員会)
委会 わくわく共育ネットワーク 副委員長 (小樽商科大学職員)
高山慎太郎

16:50-16:55 閉会挨拶
小樽市 こども未来部部長 小野寺正裕 氏

<新型コロナウイルス感染予防対策について>
・Zoomによるオンライン配信、及び会場参加のハイブリッド開催といたします。
・会場では3密を回避し、衛生管理を徹底して開催いたします。
・会場参加の方は、マスク着用、手洗い、消毒等のご協力をお願いいたします。
・状況により、全面オンライン開催、及び開催内容に変更がある場合がございます。

最新情報、お申し込みは以下サイトをご確認ください。
https://www.otaru-ucac.jp/cgs_news/207966/

お問い合わせ先
小樽商科大学グローバル戦略推進センター産学官連携推進部門
Tel: 0134-27-5499 Fax: 0134-27-5293
E-mail: cbc-ryou@office.otaru-ucac.jp



主催: 国立大学法人小樽商科大学 共催: COI-NEXT、小樽市、株式会社北海道二十一世紀総合研究所

13:10-13:40 第1部 トークセッション1 「若者のウェルビーイングと求められるまちの機能」

小樽商科大学ビジネススクール
准教授 藤原健祐

北海道教育大学岩見沢校
芸術・スポーツビジネス専攻
准教授 鈴木哲平

小樽商科大学3年/合同会社PoRtaru 代表社員 歌原大吾
北海道教育大学岩見沢校 芸術・スポーツビジネス専攻3年 加藤るか

13:40-14:25 第2部 ケースプレゼンテーション
「商業施設に求められる新たな価値の研究」
「ウエルネスのまちづくりの研究」

小樽商科大学 猪口ゼミ
小樽商科大学 大津ゼミ

14:40-15:00 第3部 トーク 「未病院」

株式会社ヘルスケア・ビジネスナレッジ
代表取締役社長
事業構想大学院大学 特任教授
西根英一 氏

東京と札幌の「二拠点」生活をしながら、全国「多拠点」でヘルスケア(健康・医療・美容)をテーマに活動。ビジネス領域だけでなく、アカデミア(大学や大学院)とパブリック(省庁や自治体)を含む領域をほぼ均等に1/3ずつに割って仕事しています。マーケティングコミュニケーションを専門に、事業構想大学院大学特任教授、千葉商科大学特命教授の他、宣伝会議コピーライター養成講座(上級コース)の講師等を務めています。

15:00-15:30 第4部 トークセッション2 「ウエルネスタウン構想」

株式会社小樽ベイシティ開発
代表取締役社長 橋本茂樹 氏

宮崎県小林市誕生。小学校から大学卒業(早稲田大学政経学部)後、26歳まで東京。27歳で北海道へ。当時のニチイへ入社(マイカル前身)。25年間激務の流通業にて勤務。システム担当、売場MG、バイザー、営業部長、経営企画室室長を経て、OBCへ再建のチーフ。18年経過。ウイングベイを小樽の地元施設として再建中。従来の商業施設からウエルネスタウンへ。全国病院の済生会北海道支部と連携し、小樽築港地区のウエルネスタウン化へ推進中。妻と二人、札幌西区在住。長女夫婦、長男家族3人も札幌在住。九州で5年、東京で22年、札幌・小樽で43年を過ごす。

社会福祉法人恩賜財団済生会支部北海道
常務理事 棚引久丸 氏

小樽市出身。リハビリテーション技師として済生会小樽北生病院(現済生会小樽病院)に入職。当時、医療業界で不足していた経営マネジメントに興味を抱き事務職に転身、病院改革を主導。同院事務部長就任後は全国済生会事務長会会長も務め、全国各地の医療・福祉経営にも関与。一方、趣味で犬のブリーダーとして活動。ビーグル犬専門犬舎のブランディング化を成功させ、「トップブリーダー」として永年TVCM等に出演。現在は、本業と趣味の経験を活かし、まちづくり「ウエルネスタウン構想」実現に奮闘中。妻・愛犬7頭と生活。

株式会社北海道二十一世紀総合研究所
調査研究部次長 河原岳郎 氏

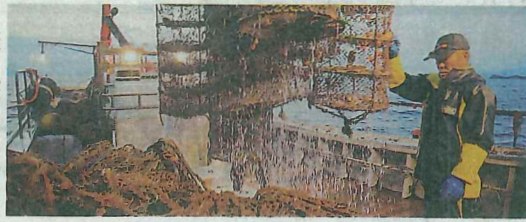
札幌市出身。小樽商科大学商学修士。同僚の祖父の介護問題から、「介護」×「経営」に興味を持つ。現場ではなく、俯瞰できる仕事として「シンクタンク」に入社。仕事がかっかたで、ウエルネスに目覚め、「残業・夜型人間からの脱却」「おいしいお酒をほどこし」を目指しているところ。様々な主体と連携しながら、制度の特にとられない新たなヘルスケアサービスや仕組みづくりに邁進中。学生時代は札幌から進学。今更ながら小樽の魅力に気づき、住んでおけばよかったと少し後悔中。

15:30-16:50 第5部 ワールドカフェ 「子育て世代と考える“安心して育てられるまち”」

わくわく共育ネットワーク 副委員長
(小樽商科大学職員)
高山慎太郎

小樽商科大学で事務職員として働きながら、『わくわく共育ネットワーク』等の様々なボランティアで活動中。小樽の魅力を世界に発信するためのInstagramアカウント「Hokkaido_OTARU_Lovers」を運営し、現在は小樽のインフルエンサーの育成にも携わっています。

小樽・祝津沖で行われて
いるホタテ漁（実行委提
供）



【小樽】小樽・祝津沖で養殖するホタテを「おタテ」と名付けてブランド化しようとする本年度の事業が着々と進んでいる。小樽市や漁業団体、小樽商大など市内の産学官17団体でつくる実行委員会が事業を展開しており、1月には観光客にかまくら内でホタテ料理を味わってもらおうツアーを行った。新年度のPR戦略も練っており、新型コロナウイルス禍で打撃を受ける地域経済を活性化するため、隠れた逸品の知名度向上に向けた取り組みが熟を帯びている。（平田康人）

小樽産ホタテブランド

「おタテ」売り込み着々

ツアー応募殺到 ■地元100店提供

「かまくらの中でホタテ料理なんて『映える』。自慢したくなった」。1月22日夜、小樽の観光スポット・堺町通り商店街に程近い場所に設置されたかまくら内で、小樽市在住の主婦堤優さん（36）は友人と写真を撮りまくった。

インスタ映え

小樽産ホタテをもじった「おタテ」のブランド化を推進するプロジェクト実行委が企画した無料のモニターツアーだ。かまくらで刺し身やすし、海鮮鍋などのホタテ料理を楽しめ、市内のホテルに1泊できるお得な内容で、10組20人の募集

に145組290人の応募が殺到した。小樽市出身で埼玉真伊奈町から参加した会社員寺林香織さん（26）は「小樽のホタテは知らなかったけどユニークな取り組み。インスタグラムで広めたい」と笑顔を見せた。

元々、小樽市はホタテの稚貝生産地として知られ、漁は明治から昭和初期にかけ、ニンジン漁と並び盛んだった。一時は乱獲で漁は途絶えたが、地元漁協などが1979年にホタテの養殖試験を始め、82年に事業化に成功。その後、約1年の成長で安定的に出荷できる稚貝の生産を本格化し、今

は宗谷管内枝幸町や若手県大船渡市など全国8カ所に出荷している。稚貝の2020年漁獲量は過去最多の28056トン、漁獲高は7億7千万円に上る。一方、成員の漁獲量は38トン、漁獲高は1千万円と市内でも出回る機会が少ない。コロナ禍の地域経済立て直しに寄与するため、成長も含めた知名度アップを図ろうと始まったのが「おタテ」のブランド化事業だ。

バイヤー納得

実行委は、巨大ホタテやベビーホタテで有名な他地域と差別化を図るため、2年ほど養殖した約1000号の中サイズを成員として売り出している。大手スーパーの水産バイヤーに試食してもらい、「貝柱の弾力が非常に強く、コリッとした食感とうま味がある」とお墨付きを得た。



①かまくら内で小樽産ホタテの料理を味わったモニターツアーの参加者
②モニターツアーで提供されたすしやすた、鍋などのホタテ料理（いずれも1月22日、小樽市内（錦山園撮影）



昨年3月に小樽商科大や小樽市などがプロジェクト実行委員会を発足させて活動を本格化させていた。同5月にはコロナ禍で失われ

た観光需要の回復を後押しする観光庁の「域内連携促進に向けた実証事業」（事業費1200万円）に選定された。

実行委は、巨大ホタテやベビーホタテで有名な他地域と差別化を図るため、2年ほど養殖した約1000号の中サイズを成員として売り出している。大手スーパーの水産バイヤーに試食してもらい、「貝柱の弾力が非常に強く、コリッとした食感とうま味がある」とお墨付きを得た。